

# 令和4年 お茶づくり技術情報 (No.8)

2022年9月6日  
佐賀県茶業技術協会  
佐賀県茶業試験場

## 1. 台風・潮風害対策

### 1) 被害の outf

台風による被害は、集中豪雨による水害、強風による葉折れ、葉こすれや切葉等の物理的損傷、海水を含んだ気流の付着による潮風害がある。中でも潮風害を受けた場合の被害は大きい。潮風害は強風や雨を伴わない風台風の時に多く発生する。風とともに海水が飛散し植物体に付着すると作物体の褐変、落葉や発育停止を起こし、翌年の品質・収量に大きく影響する。また、被害がひどい場合は枯死に至る。

※台風11号は南風が強く、有明海沿岸や大村湾沿いの茶園については、台風通過後に園を巡回し、潮風による被害を確認してください！（特に幼木園や海岸に面した側の樹冠面）

台風通過中から直後に降水量が少ないと、塩分が凝縮され被害が発生しやすくなります。

#### 潮風害の確認方法

- (1) 台風通過直後に植物の葉を舐めて潮風飛来の有無を確認する。  
やや甘味を感じると NaCl で 3000ppm 程度、塩辛味を感じると 5000ppm 以上と言われる。
- (2) 塩分付着に対してはセイタカアワダチソウが敏感なため、周辺のセイタカアワダチソウに潮風害（葉縁部から黒みを帯びちぢれる）が生じていないか確認する。

### 2) 事後対策

#### (1) 潮風害

- ① 潮風害の発生が懸念される茶園では、台風通過後速やかに(4時間以内)真水を散水(4~5t/10a)し、付着した塩分を洗い流す。
- ② 潮風害（先枯れや枝枯れ）が発生した場合には、被害直後にせん除せず、被害部位を確認し、指導機関へ相談して対応する。

## (2) 強風被害

- ① 強風により葉ずれした茶園(特に幼木園)では、傷口から細菌が侵入し、赤焼け病の発生が懸念される。台風通過後できるだけ早く銅水和剤の散布を行う。
- ② 防霜施設の傾き、幼木園ではマルチのはがれや株の浮き上がり等を点検し、被害がある場合は元の状態に戻す。
- ③ 幼木園などで、強風によって株が揺れ動かされた場合には、早めに土寄せを行い、敷きワラ等を行って地際や根を保護する。

## (3) 赤焼け病に関する参考情報

赤焼け病に対する薬剤の防除効果は、薬剤間で大差はなく、いずれも効果がみられた。また、台風通過前後の薬剤散布は赤焼病の防除に効果がある(図2)。

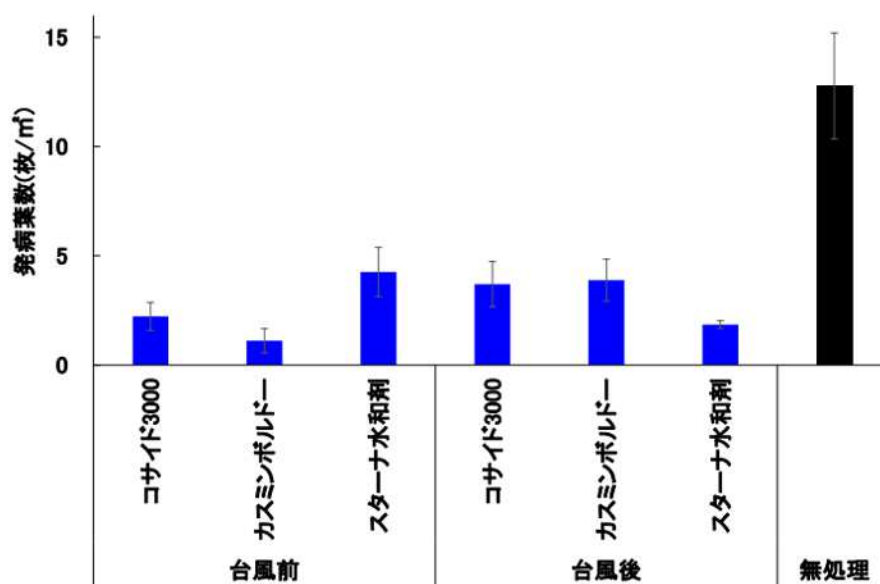


図2. 台風通過前又は通過後の薬剤散布による赤焼病防除効果

- 1) 「おくひかり」成木園において調査した。
- 2) 9月8日と10月12日に上陸した台風の通過前(9月6日、10月10日)又は通過後(9月10日、10月16日)に薬剤を散布し、11月11日に発病葉数を調査した。
- 3) 薬剤濃度は各1000倍、散布量は400L/10a。

引用：静岡県農林技術研究所茶業研究センター

「チャ赤焼け病への薬剤の防除効果と防除適期」